

想像の翼にのって— vol.5 国境を超えてつながる人々

韓国・ソウルで開催された「WEB TV ASI AWARD 2016」の翌朝、僅か3年間でマレーシアからアジア12カ国に拠点を拡げ、YouTube、映画、音楽、イベントなど、オンラインからオフラインまで様々な仕掛けを行い、一躍、アジアのデジタルメディア・エンターテインメントシーンをリードする存在となったWeb TV Asia 創業者のFred Chongと対談を行った。

赤峰 昨夜は、素晴らしいイベントに招待してくれてありがとう。アジアのクリエイターに夢を与えられる舞台だった。

フレッド 前回、僕らがバリで会った時には、昨夜、出演してくれたピコ太郎はまだ存在しなかった。彼の社会現象とも言える世界的な人気はすべて、ここ数カ月の話なんだ。今の時代の変化はとても速い。

赤峰 彼に起きた現象は今の時代を象徴しているし、誰にも可能性の扉は開かれたということ。これから起きる変化の序章だと思う。

フレッド この変化のためにこれまで準備してきた。Web TV Asiaは、優良なコンテンツを創造するアジアのクリエイターが、何処にでも、誰にでも、最高の形で作品を届けられるハブとなり、アジアを一つに繋げたい。

赤峰 最初にWeb TV Asiaを知った時、「Celebrate Asia」「Rise Of Asia」というスローガンが、とても印象的で興味深かった。アジア各国の人たちが参加する会場の熱気

『アジアを一つに繋げるインターネットメディア(1)』

文 赤峰俊治 text by Shunji Akamine

には、アジアの文化解放とも言うようなカタルシスと、混沌としたエネルギーを感じた。

フレッド これまで、アジアは欧米のコンテンツを消費する立場だったから、その状況を変えたかった。アジアには素晴らしい宝石がたくさん埋もれている。インターネットは世界を繋いだけれど、その可能性をフルに活かし、積極的に交流を進めているアジアの国はまだ少ない。アジアのMillennials（1990年代生まれの若者）は7億人いるから、今後、世界最大のマーケットに成長する。

赤峰 日本人、マレーシア人ではなく、アジア人としての君の視点には共感する。少し前まではどの国も、国の中で争っていた。今後、インターネット空間で国境を超えた交流が活発になる中で、人々は少しずつ、アジア人、地球人としての意識に目覚めていく。アジア各国と交流する中で日本についてはどう感じる？

フレッド 日本人の創造性と革新性にはずっと敬意を感じてきた。いつも、アジアの国々は日本の背中を追い掛けてきた。でも、日本はいつの間にか、立ち止まってしまった。そして、この分野でも国際化の波に乗り遅れていると感じる。（次回続く）



(左：赤峰氏、右：Fred Chong氏)

Profile

Arigato Japan Inc. CEO & Founder / Cool Japan TV. Executive Producer

1971年、大分県出身。

國學院大学卒業後、政府系金融機関の信用保証協会に入社。融資審査業務に携わる中で、企業にとって既存の商圏を越えることのできるインターネットメディアに可能性を感じて起業。オンライン動画を活用した行政や企業の情報発信プロデュースにおいて数々の実績を残す。もともと面白いチャンネルを投票で決める「USTREAM大賞」を2年連続受賞。現在、43カ国に約5,000人の会員を持つ、オンライン動画スクールを運営。アジア最大のYouTuberネットワークを活用した、インバウンドプロモーション及びマーケティングを手掛ける。

<http://arigato-jp.com>